

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.261

2015年2月

名古屋大学全学同窓会フィリピン支部を設立



目次

●ニュース	
名古屋大学全学同窓会フィリピン支部を設立	3
本学学生が日本学生支援機構優秀学生顕彰で入賞	4
平成26年度日本数学コンクール表彰式を挙行	4
2014年度学生論文コンテストの表彰式を挙行	5
大学入試センター試験が実施される	5
キャンパスクリーンウィークを実施	6
●知の未来へ	
目に見えて手で扱えるナノ物質グラフェンの大面積結晶成長とその展開	7
乗松 航 (大学院工学研究科助教)	
●知の先端	
日本中世における徳政としての寺社興行政策	8
稲葉 伸道 (大学院文学研究科教授)	
●キャンパスクローズアップ	
医系研究棟3号館	10
●学生の元気	
平成26年度名古屋大学体育会会長表彰 表彰式	12
●部局ニュース	
第20回名古屋ビジネスセミナーを開催	13
教育学部附属中学入学者選抜検査を実施	13
仁科記念講演会を開催	14
平成26年度鶴舞公開講座を開催	14
名古屋大学ーラクオリア創薬株式会社との合同シンポジウムを開催	15
第7回おもしろ科学教室を開催	15
材料バックキャストテクノロジーシンポジウムを開催	16
第24回 IHP トレーニング・コースを開催	16
公開講演会「環境災害リスクと地球水循環研究」を開催	17
『名古屋大学附属図書館蔵水田文庫貴重書目録』刊行記念講演会を実施	17
第58回博物館コンサートを開催	18
ミクロの探検隊®開催	18
第106回防災アカデミーを開催	18
平成26年度「高校生防災セミナー」を開催	19
●名大を表敬訪問された方々	20
●新たに締結した学術交流協定	20
●構成員を対象とした研修	21
●INFORMATION	
平成26年度定年退職教授等の最終講義日程	22
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成26年12月16日～平成27年1月15日	23
●イベントカレンダー	27
●ちょっと名大史	
名大の広報刊行物ー『トピックス』『プロフィール』への道ー	32

名古屋大学全学同窓会フィリピン支部を設立





2
1

- 1 フィリピン支部旗贈呈の様子
- 2 記念撮影

名古屋大学全学同窓会フィリピン支部設立総会が、12月20日(土)、フィリピンの首都マニラにおいて開催されました。現在フィリピンには110名を超える本学への留学経験者がおり、本支部は、名古屋大学全学同窓会の14番目の支部として設立されました。

設立総会には、本学から濱口総長、齋藤哲夫本学名誉教授、伊藤勝基参与、山内 章生命農学研究科教授など9名の関係者が出席し、全学同窓会からは、豊田章一郎全学同窓会会長ご夫妻、伊藤義人全学同窓会代表幹事、中野富夫連携委員会委員長が出席しました。フィリピン側からは、本学への留学経験者だけでなく、フィリピン駐在の日本人同窓生及び日本大使館からも参加があり、計72名が出席しました。

本総会は、本学への留学経験者であるシンシア・サロマ博士と大成建設フィリピン社長である鈴木 勇氏の2名の司会のもと、英語と日本語により行われ、1時間半をかけて、これまでの海外支部で開催したものに比べて厳格な形で執り行いました。まず、全員が起立してフィリピン国歌斉唱を行った後、開会の辞が、パグアサ・ガスピロラサル大学副学長からありました。

次に、伊藤代表幹事から豊田会長ご夫妻や総長など日本からの代表团12名の紹介が行われました。フィリピン支部の25名の同窓生については、支部の事務局長を務めるアンドレ・ウィストン・オレタ ラサル大学教授から紹介がありました。さらに、鈴木氏からフィリピン駐在の日本人同窓生の参加者11名の紹介と、当日、フィリピンに出張中で、急遽出席となった森川高行環境学研究科教授、谷川寛樹同研究科教授、研究室所属のフィリピン人学生2名及び在フィリピン日本大使館からの3名の参加者についても紹介がありました。

その後、クリスティーノ・コリアード支部長に、豊田会長から支部認定証と富士山の絵柄の記念絵皿(裏に全学同窓会の記銘)が贈呈され、次に、総長から全学同窓会製作によるフィリピン支部旗が贈呈されました。

引き続き、豊田会長、総長から支部設立のあいさつが行われ、アジアサテライトキャンパス学院の設立などによって、今後アジア地域との連携をいっそう深めていくため、フィリピン側からの協力が必要であることなどが述べられました。

次に、フィリピン支部の8名の役員が壇上に上がり、役割担当の紹介、決意表明の宣誓がありました。この後に、フィリピン支部から豊田会長夫人に花束が贈られ、豊田会長と総長に記念品が贈呈されました。

その後、コリアード支部長から、今回の支部設立に貢献された方々の名前を全て挙げて、感謝の意が表わされました。特に、今回の支部設立に大変尽力し、コリアード支部長の恩師でもある、齋藤名誉教授には多大な感謝の意が表わされました。今後、本支部が本学の国際化に貢献して、大学との絆を深めたいと述べられるなど、大変丁寧なあいさつがありました。

最後に、フィリピンから本学への最初の留学生であったジョセフ・マサンケイ フィリピン大学名誉教授から閉会の辞があり、総会は閉会となりました。

フィリピン人の留学経験者からは、フィリピン支部設立の喜びとともに、非常にアットホームな雰囲気でのこもった良い設立総会になったという感想が寄せられました。

本学学生が日本学生支援機構優秀学生顕彰で入賞

医学部6年生の米内 竜さんが日本学生支援機構の平成26年度優秀学生顕彰で入賞を果たしました。本顕彰での本学学生の入賞は初めてのことです。

日本学生支援機構は、学術、文化・芸術、スポーツ及び社会貢献の4分野について優れた業績をあげた学生を顕彰することにより、これらの活動をいっそう促進し、奨励援



祝賀会での記念撮影（左が米内さん、右が藤本副研究科長）

助しています。

米内さんは、医療系学生の繋がりを作る各種イベントの企画、東日本大震災復興支援活動、学生救急救命サークルの立ち上げによる知識や技術の普及及び医学講義動画や大学受験講義動画の収録・配信による知識の共有といった活動により、社会への貢献が認められ、社会貢献分野において大賞を受賞しました。

なお、12月13日(土)にはアルカディア市ヶ谷において、表彰式ならびに祝賀会が行われ、米内さんとともに本学を代表して、藤本医学系研究科副研究科長が出席しました。

平成26年度日本数学コンクール表彰式を挙行

平成26年度日本数学コンクール表彰式が、12月23日(火・祝)、シンポジオンホールにおいて挙行されました。

今回は、受賞した生徒とその保護者など、約80名が出席しました。

表彰式では、日本数学コンクール委員会委員長を務めている國枝理事、加藤文彦愛知県教育委員会高等学校教育課



受賞者の集合写真

主査からあいさつが述べられた後、11月2日(日)に名古屋・大阪・三重・和歌山の4会場で行われた第25回日本数学コンクール、第18回日本ジュニア数学コンクールで優秀な成績を収めた30名及び第15回日本数学コンクール論文賞で優秀な論文を作成した7組(17名)に対し、國枝理事から賞状、メダル及び副賞が授与されました。

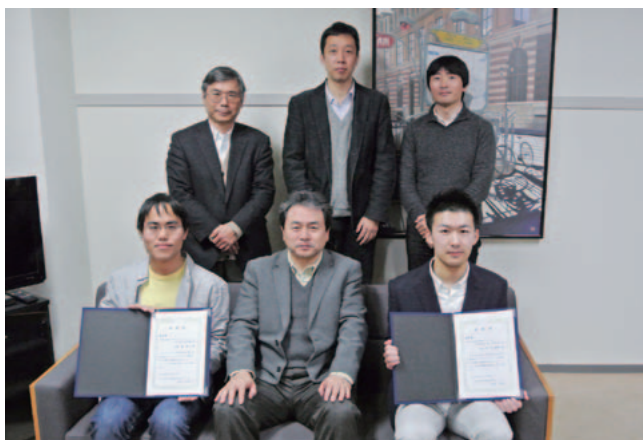
続いて、日本数学コンクールのシニア大賞、日本ジュニア数学コンクールのジュニア大賞、日本数学コンクール論文賞のシニア金賞を受賞した生徒、保護者らから受賞の喜びと感謝の言葉が述べられました。

表彰式終了後には、問題作成に携わったコンクール実行委員の教員が、問題に対する解答とそこに辿り着く過程や考え方について、生徒と会話しながらポスターセッション形式で解説をしました。

2014年度学生論文コンテストの表彰式を挙

2014年度学生論文コンテストの表彰式が、12月24日(水)、高等教育研究センター会議室において挙

行されました。本コンテストは、「論理的な文章を書く」経験を奨励することを目的として、毎年開催されています。今年度は、山本理事、佐野附属図書館長、戸田山教養教育院副院長・



記念撮影 (下段左が森さん、右が井ノ尾さん)

名古屋大学生協理事長、水谷高等教育研究センター長による審査の結果、以下の2作品が優秀賞に選出されました。受賞論文は、本学の研究成果物として名古屋大学学術機関リポジトリに登録されます。

表彰式では、表彰状と副賞の授与、記念撮影が行われたのち、審査員からの受賞論文に関する講評、受賞者からの受賞に関するコメントが述べられました。

優秀賞

「私の日本政治再生プロジェクト
不安定雇用に見る日本政治の行方」
法学部2年 井ノ尾 徳哉さん

優秀賞

「音響・調音声学でのフォルマントによる
多言語の母音比較分析」
理学部1年 森 崇人さん

大学入試センター試験が実施される

—本学関係会場で約6,900名が受験—

平成27年度大学入試センター試験が、1月17日(土)、18日(日)の2日間、全国690会場で実施され、本学関係では東山キャンパスや学外の高等学校など合計7会場で約6,900名が受験しました。今年度の全国の志願者数は、前年度より1,540名少ない559,132名となりました。

試験1日目は、早朝に雨が降りましたが、受験生が集ま



試験に臨む受験者

る頃には陽が照りだして暖くなりました。会場には午前8時過ぎから受験生が集まり始め、参考書やノートで最終チェックをしていました。東山キャンパスでは、教師から激励を受け健闘を誓う受験生の姿も見られました。8時30分の入室開始と同時に、受験生は次々と試験室へ入室し、予定どおり試験が実施されました。

今年度は学習指導要領の変更に伴い新課程・旧課程で受験科目が違うなど試験科目が複雑になりましたが、特に混乱はありませんでした。

また、濱口総長と竹下事務局長が各試験場を訪問し、試験場主任及び教職員に労いの言葉をかけました。

なお、本学の前期日程試験は、2月25日(水)、26日(木)及び27日(金)に、また、後期日程試験(医学部医学科)については、3月12日(木)に実施されます。

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が12月15日(月)から19日(金)まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、環境保全に対する関心を高めるために、6月と12月の環境月間に平成元年から年2回実施しているもので、本学も名古屋市の一構成員として境界の外周清掃も併せて行い、環境美化に努めています。

本部では、12月17日(水)の午後、折からの寒気の到来により寒風吹きすさぶ中、竹下事務局長、小松施設管理部長

をはじめとする約130名の参加者が、東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶、紙くず、可燃・不燃ごみ、不要なビラの撤去などの作業を行いました。

平成23年に変更された名古屋市のごみ分別区分が浸透してきたこともあり、参加者の分別意識がより高くなってきています。本学では、今後も年2回のキャンパスクリーン(屋外清掃)を実施することにより、「ゴミのないきれいなキャンパス」を目指していきます。



説明を受ける職員



構内を清掃する職員

目に見えて手で扱えるナノ物質グラフェンの大面積結晶成長とその展開

大学院工学研究科助教
乗松 航

への応用ですが、そのためには絶縁性基板上に大面積かつ高品質のグラフェンを直接成長させる技術の開発が必要です。我々は半絶縁性 SiC ウェハ上に単結晶のグラフェンを数 mm のサイズで成長させることに成功し (図 1 (c))、その構造や物性について調べています。特に、高分解能電子顕微鏡観察により行った原子レベル構造解析に基づいて、グラフェンの成長メカニズムを世界で初めて明らかにし、グラフェンと基板の界面構造についても初めて報告しました。最近では、異種原子ドーピングや界面構造の改良によって、グラフェンの物性を自在に制御する手法の開発を進めています。今後も引き続き、世界トップクラスの研究者らとの協力を削り合いながら、最先端の研究を進めていきます。

グラフェン成長に関する概要と、その中における我々の研究成果について、解説論文を 3 本出版しています (W. Norimatsu and M. Kusunoki, *Phys. Chem. Chem. Phys.*, **16**, 3501 (2014), *J. Phys. D: Appl. Phys.*, **47**, 094017 (2014), *Semicond. Sci. Tech.*, **29**, 064009 (2014))。

グラフェンという物質は、蜂の巣格子点に炭素原子を配置した、原子 1 個分の厚さを持つ 2 次元物質です (図 1 (a)、(b))。室温でのキャリア移動度 $140,000 \text{ cm}^2/\text{Vs}$ 、可視光透過率 97.7%、熱伝導度 $5,000 \text{ W/mK}$ 、引っ張り強度 130 GPa と、興味深く優れた物性が無数に報告され、最近では毎日 40 本以上のグラフェン論文が出版されているほどです。市販の粘着テープを使用してグラフェン 1 層を“手で”剥がし取り、光学顕微鏡を利用して層数を“目で”確認して、その物性測定を行った研究者は、2010年にノーベル物理学賞を受賞しました。

応用の観点からも非常に期待されており、IBM は遮断周波数 300 GHz もの高速トランジスタを開発し (一般的な PC の動作周波数は 3 GHz 程度)、ノキアはグラフェンを利用したカメラセンサーを開発、サムスはフレキシブルなスマートフォンの開発を進め、グラフェンを使ったテニスラケットはすでに市販され、マリア・シャラポワが宣伝しています。

特に期待を集めているのは、エレクトロニクス

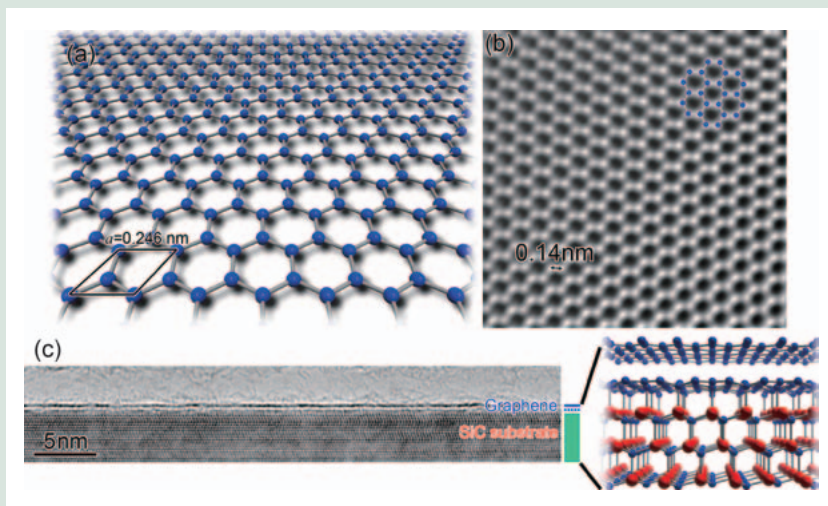


図 グラフェンの (a) 構造と (b) 電子顕微鏡像。 (c) SiC 基板上グラフェンの電子顕微鏡像。青丸が炭素原子を、赤丸がシリコン原子を表す。

日本中世における徳政としての寺社興行政策

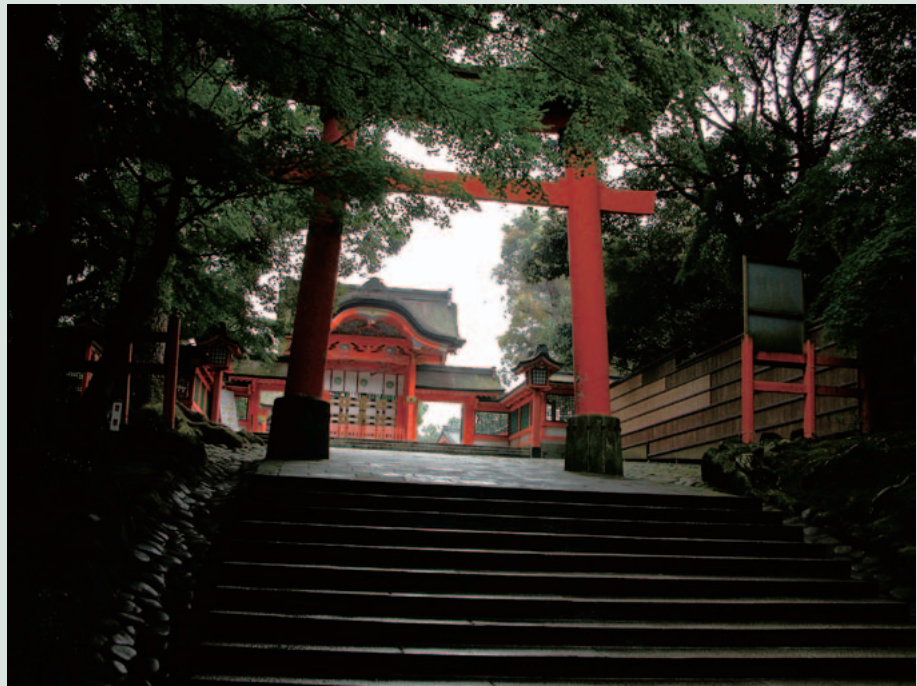
稲葉 伸道 大学院文学研究科教授

「知の先端」ではなく「知の末端」かもしれませんが、現在、私が研究していることを少し綴ってみようと思います。

日本の歴史において中世はもっとも宗教、とくに仏教が広く人々の心に浸透していった時代です。中世という時代を一言で表すとすれば、武士と仏教の時代と答えても、それほど異論はないでしょう。さて、そのように貴族や武士、庶民に至るまで広く信じられた宗教の時代にあって、国家は宗教を無視しては成り立ちませんでした。仏教やそれに深く影響された神祇は、寺院や神社とい

うかたちで存立しています。古代以来の朝廷（公家政権）や新しく関東に起こった幕府（武家政権）は、どのようにこの寺社に対応していたのでしょうか。

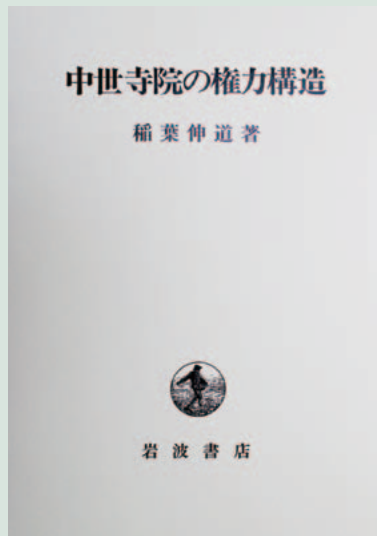
中世国家の政治方針、政治思想を表す言葉に「徳政」という言葉があります。善政あるいは仁政とも言いますが、古代中国に淵源をもつこの政治思想は、日本にもたらされ天皇の統治理念になりました。この理念は興味深いことに平安末から鎌倉期において、もっとも昂揚します。徳政の理念は朝廷だけではなく、武家政権である幕府も共



宇佐八幡宮は九州最大の神社で、幕府や朝廷の神領興行令の対象となった。

有していました。徳政思想では彗星や新星の出現、地震の発生などの天変地異、それに連動して起こる飢饉は、為政者の政治が悪いために人々の怒りや歎きが天に通じ、天帝が国家の統治者である天子に示した警告、サインとされ、統治者はその災異を攘災するために徳政を施すものとされました。天変地異、革命が起こるとされた辛酉の暦年、天皇など統治者の代替わりには、徳政が議論され、新制という法の形を以て全国に発布されたのです。

徳政として、先ず統治者たちは自らの奢侈（過差）を禁止し、その時の政治課題を改革しようとするのですが、その一つの重要な項目が「寺社興行」でした。「興行」というと、なにか今日の芸能興業を連想しますが、当時は「興（起）こす」こと、衰退しているものを復興すること、盛んにすることを意味しています。広く人々に信仰され、国家を鎮護し、王権を擁護する機能を果たしていると位置づけられた南都北嶺の大寺院や、伊勢神宮や石清水八幡宮などの重要な神社、地方の一宮などは、国家（朝廷や幕府）が伽藍を維持し、そのための経済的基盤を保証すべきと考えられていました。それらの寺社で行われる法会や神事を円滑に行うことが、国家や社会を安穩に維持するために欠かせないと信じられていたのです。それでは、朝廷や幕府は実際、どのようなことを寺社興行政策として行ったのか。寺社領を寄進することは勿論ですが、寄進した寺社領が寺社から外部へ流出することを禁止し、一旦、流出した所領を元の寺社に取り戻す政策が行われました。寺社領の外部への流出は、別相伝領として寺社の所職に就いた者が、その職を退いた後も、就任時の権利を私領として保持し、自分の子孫に譲渡して行く



現在の研究の基礎となるべき、中世の大寺院の組織と構造を追究した論文集。

場合と、何らかの理由で寺社領を売却した場合があります。それを徳政として元の状態に戻そうとしたのが、寺社興行政策のなかの重要な政策であったのです。この政策はモンゴル襲来の影響もあり、朝廷だけではなく、幕府も積極的に推進しました。

私は、現在、このような寺社興行政策が幕府や朝廷によってどのように推進されていったのかを、政権の代替わりごとに詳細に検討しています。また、鎌倉期だけではなく、建武政権期や室町期において、それがどのように継承され、また、消えていったのかを見通すことによって、中世という時代の一側面を切り取りたいと思っています。

岐阜県大垣市生まれ

1978年 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了
1980年 文学部助手、講師（1982年）、助教授（1987年）
1997年 教授（2000年大学院教授）、現在に至る
博士（歴史学）

いなば のぶみち



46. 医系研究棟 3号館 Medical Science Research Building 3



医系研究棟 3号館は隣接する医系研究棟 1号館、医系研究棟 2号館とともに、基礎医学と臨床医学の融合型研究を一層推進し、世界最高水準の教育研究成果を創出することを目的として、平成26年6月に完成しました。構造は鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階地上10階建ての建物で延床面積は13,087m²に及びます。

地下1階及び1階はアイソトープ総合センター、2階及び3階に解剖実習室や組織・病理実習室などの教育施設、4階及び5階に医学教育研究支援センターを配置し、6階から10階はプロ

ジェクトスペースとして計画されました。

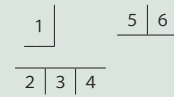
建築計画にあたり、以下のような6つのコンセプトを定めました。

コンセプト1：鶴舞キャンパスにおける機能的動線に配慮した配置計画及び立面計画

配置としては、北側と西側が鶴舞キャンパスの主要な構内道路に面するため、それぞれに対して出入口を設けることで機能的な動線を確保しています。

また、南北面は研究棟としての機能上多くの配管が伸びています。これらについては、ルーバーを設置したり手すりの形状を工夫することで、室内に光を取り込みながら配管等をゆるやかに隠し、研究棟らしい外観を形成しています。





- 1 外観北西面
- 2 エントランスホール
- 3 2階解剖実習室
- 4 6階ライブラリー
- 5 プロジェクトスペース1
- 6 プロジェクトスペース2

コンセプト2：フレキシブルな空間の実現

上層階のプロジェクトスペースは将来の入れ替わりが予想されます。そこで床面に幅500mm、深さ400mmの溝を設け、実験機器の設置や更新を容易に行うことができるように配慮しています。

さらに各階外部には十分な広さのメンテナンススペース及び将来配管スペースとして、設備用バルコニーを計画しました。

コンセプト3：機能的であると同時に教育の場に相応しい環境の創出

解剖実習室や組織・病理実習室は、低層部分に位置しながら部屋の中に柱のない大空間を実現しました。日々利用する学生に対してアプローチの利便性と、教育の場としての機能性を両立しています。

コンセプト4：省エネルギー・環境負荷低減

省エネの取組みとして全館LED照明を採用しています。外壁は高断熱・高气密化を図るとともに、南北の窓面には複層ガラスとし、さらに特に日射の影響が大きくなる東西面は窓面積を小さくし、遮熱フィルムを採用することで日射を遮る効果を高めています。

コンセプト5：再生可能エネルギーの利用

北西角に位置した屋内階段室をガラス張りとして、日射により暖められた空気は最上部の自然換気窓から抜けていきます。この自然換気の効果により、階段室につながる各階の廊下やエレベーターホールの自然通風を促進しています。

また、地中にはアースチューブと呼ばれる配管を設置しています。ここに外気を通すことで、地中熱により、夏は冷やされた、冬は暖められた空気をエントランスホールに取り入れることができます。

コンセプト6：安心性・安全性・信頼性・保全性の確保

構造計画としては、東西の外壁面に制震ブレース（筋交い）を設置しています。これにより地震エネルギーを吸収し、地震による被害を低減します。制震ブレースは微小振動や風揺れを低減する効果があり、研究棟としての機能性を高めています。

医系研究棟3号館は以上のようなコンセプトに基づき設計、建設されました。それぞれのコンセプトで目指した機能が実現されること、また、この建物が利用者に愛され、さらに世界屈指の知的成果が生み出されることを期待します。

平成26年度名古屋大学体育会会長表彰式



名古屋大学体育会は、1月6日(火)、豊田講堂第1会議室において、平成26年度名古屋大学体育会会長表彰式を挙行了しました。

この表彰は、本学体育会に加盟するクラブで各種競技大会において優秀な成績を収めた個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的としたもので、今回で26回目

となります。

今年度は、「個人の部」8名、「団体の部」9団体が本学体育会会長である濱口総長から表彰され、1年間のめざましい成果を讃えられました。

受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。

平成26年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 (表彰対象期間：平成25年11月1日～平成26年10月31日)

個人の部 (8名)

個人名	所属学部・学年	所属団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
1 川島 実紗	教・2年	オリエンテーリング部	特別賞 (第4条1項1号)	2014年度第25回ジュニア世界オリエンテーリング選手権 (ソフィア州、ブルガリア) 女子ロング、ミドル、スプリント種目 出場
2 細川 知希	工・M1	オリエンテーリング部	特別賞 (第4条1項1号)	2014年度第19回世界大学オリエンテーリング選手権 (オロモウツ、チェコ) ロング、ミドル、リレー種目 出場
3 七原 優介	教・4年	硬式野球部	一般賞 (第4条2項3号)	大学野球日本代表候補選出
4 國司 寛人	工・3年	陸上競技部	一般賞 (第4条2項2号)	第80回東海学生陸上競技対校選手権大会 男子10,000m 優勝
5 榊原 舞子	農・4年	漕艇部	一般賞 (第4条2項2号)	第41回全日本大学選手権大会 女子舵手なしペア 優勝
			一般賞 (第4条2項3号)	第92回全日本選手権大会 女子舵手なしペア 準優勝
6 関根 優佳	医(保)3年	漕艇部	一般賞 (第4条2項2号)	第41回全日本大学選手権大会 女子舵手なしペア 優勝
			一般賞 (第4条2項3号)	第92回全日本選手権大会 女子舵手なしペア 準優勝
			一般賞 (第4条2項1号)	第69回国民体育大会 ボート競技 成年女子 シングルスカル 7位入賞
7 千葉 尚彬	情文・3年	ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第32回中部学生ライフル射撃伏射大会 優勝
8 宮川 采弓	理・3年	アーチェリー部	一般賞 (第4条2項2号)	2014年度東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 女子の部 優勝

団体の部 (9団体)

団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
1 オリエンテーリング部	一般賞 (第4条2項3号)	2013年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 リレー競技部門 準優勝
2 舞踏研究会	一般賞 (第4条2項2号)	第50回中部日本学生競技ダンス選手権大会 団体成績 優勝
	一般賞 (第4条2項2号)	第50回中部日本学生競技ダンス選手権大会 フォーメーションの部 優勝
3 ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第43回中部学生ライフル射撃三姿勢大会 10m エアライフル三姿勢3×20発競技 団体 優勝
	一般賞 (第4条2項2号)	第32回中部学生ライフル射撃伏射大会 10m エアライフル60発競技 団体 優勝
4 アメリカンフットボール部	一般賞 (第4条2項2号)	東海学生連盟2013年度秋季リーグ 優勝
5 フォーミュラチームFEM	一般賞 (第4条2項2号)	第12回全日本学生フォーミュラ大会 総合優勝
6 剣道部	一般賞 (第4条2項3号)	第53回全国七大学総合体育大会 剣道競技女子 優勝
7 男子バレーボール部	一般賞 (第4条2項3号)	第53回全国七大学総合体育大会 バレーボール競技男子 優勝
8 女子バレーボール部	一般賞 (第4条2項3号)	第53回全国七大学総合体育大会 バレーボール競技女子 優勝
9 航空部	一般賞 (第4条2項3号)	第17回全日本学生グライダー新人競技大会 準優勝

第20回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、12月12日(金)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、第20回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。このセミナーは、本学経済学部同窓会である一般社団法人キタン会と共同で開催しており、今回はクールジャパン機構代表取締役社長の太田伸之氏を迎え講演が行われました。



講演を行う太田氏

平成24年12月に発足した安倍政権は成長戦略の具体的なテーマの1つとして、「クールジャパンの推進」を掲げました。クールジャパンの推進の具体的な内容として、日本のコンテンツやファッション、文化・伝統の強みを産業化し、それを国際展開するための官民連携による推進方策及び発信力の強化について検討すること、特に日本食を世界に広め、日本食材の海外展開を進めることを検討することとされています。

太田氏は、アパレル、百貨店業界等での長年の経験と実績を買われ、クールジャパンの推進のために昨年11月に発足した官民ファンドであるクールジャパン機構のトップに就任しています。「おまけしない日本〜クールジャパン機構の事業戦略〜」と題した講演では、クールジャパン機構の役割は民業補完のためのリスクマネー供給であるとした上で、地方から東京など大都市を経由せず直接世界に進出する動きを応援すること、またビジネスの在り方としても安易に値引き要求には応じず高価格の理由を説明して毅然と商売すべきことを力説しました。

教育学部附属中学入学者選抜検査を実施

●教育学部附属中・高等学校

教育学部附属中・高等学校では1月10日(土)、11日(日)の2日間、同校において中学入学者選抜検査を実施しました。出願者は589名(内訳は男子282名、女子307名)と、昨年より11名増え、過去5年連続での増加となりました。

昨年、交流棟が竣工してから初めての検査で、改修後に玄関からの導線が整ったこともあり、今年度は開校以来初

となる「検査会場集合」を試みました。受検生の小学6年生が初めての場所にたどり着けるかが懸念されましたが、大きな混乱もなく、昨年までのように寒いこの季節に外で集合する必要がなくなりました。

国公立の中高一貫校は学力試験ではなく、「検査」によって入学者を選抜しています。「検査」の問いは答えが1つではありません。1日目は検査Ⅰ(適性検査)と検査Ⅱ(作文)、2日目は検査Ⅲ(作業を伴うグループ面接)を行いました。検査Ⅰでは小学校で学習をした内容の総合力を、検査Ⅱでは思考力や表現力を問います。検査Ⅲでは個性、主体性、協働性を見ます。受検生はすべての検査に一生懸命取り組んでいました。1月16日(金)には合格発表が行われ、男女40名ずつ発表されました。

同学校の入学式は4月7日(火)、豊田講堂において、中高の新入生、新入生の保護者、そして在校生全員が参列して行われます。豊田講堂で全校生徒と共に新入生を迎えることは、同校が大切にしていることの1つです。



開場を待つ受検生

仁科記念講演会を開催

●大学院理学研究科、素粒子宇宙起源研究機構

大学院理学研究科及び素粒子宇宙起源研究機構は、11月20日(木)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、仁科記念財団との共催、日本アイソトープ協会の後援を受け、仁科記念講演会を開催しました。

仁科記念財団は、「故仁科芳雄博士のわが国及び世界の学術文化に対する功績を記念して、原子物理学及びその応



講演者（左が高橋京都大学教授、右が三田名誉教授）

用を中心とする科学技術の振興と学術文化の交流を図り、もってわが国の学術及び国民生活の発展、ひいては世界文化の進歩に寄与すること」を目的として設立された財団で、仁科博士の誕生日にあたる12月6日前後に定例の記念講演会を東京で催すほか、地方講演会、外国の著名物理学者を招へいしての特別講演会を開催しています。

今回の講演会には120名ほどの聴衆が集まり、仁科記念財団理事長である小林 誠本学特別教授、篠原理学研究科長、素粒子宇宙起源研究機構長である益川敏英本学特別教授のあいさつの後、高橋義朗京都大学教授、三田一郎本学名誉教授から、それぞれ、「冷却原子を用いた量子シミュレーション」及び「クォーク物理学の展開」と題して講演がありました。

高橋教授は平成25年、三田名誉教授は平成9年にそれぞれ「イッテルビウム超低温量子系の創出」及び「B中間子系でのCP対称性の破れの理論」の功績で仁科記念賞を受賞しています。また、同賞以外にも高橋教授は、第12回久保亮五記念賞、アメリカ物理学会フェロー表彰など、また、三田名誉教授は第10回井上學術賞、第55回中日文化賞、平成14年秋の紫綬褒章、J.J. Sakurai賞など、数々の賞を受賞しています。

平成26年度鶴舞公開講座を開催

●医学部

医学部では、12月6日(土)、平成26年度鶴舞公開講座を開催しました。同講座は市民向け公開講座として、社会的に関心が高く、日常で役立つ話題をテーマに、平成17年度から年1回開催しているものです。

今回は、「いつまでも頭スッキリ！暮らすためには」をテーマに開催し、入谷修司医学系研究科精神医療学寄附



講演の様子

講座教授による「こころが萎えても折れないために」、鈴木裕介同研究科地域包括ケアシステム学寄附講座准教授による「認知症ケアの新しい流れ」、大竹宏直同研究科睡眠医学寄附講座准教授による「1日の始まりはどこから？～明日のための今日の睡眠～」の3つの演題を用意しました。

日本は世界でも有数の長寿国です。体はもちろん、頭・心も健康に過ごすための方法について、いずれの講演も時折ユーモアを交えながらのわかりやすい内容で、活発な質疑応答の様子からも、受講者の関心の高さがうかがえました。

当日は、雪まじりの天候の中、リピーターを数多く含む20代から80代までの幅広い年齢層の約220名が受講しました。受講者からは、大変参考になった、次年度以降もぜひ参加したいという声が多数聞かれました。

名古屋大学ーラクオリア創薬株式会社との合同シンポジウムを開催

●大学院医学系研究科、大学院創薬科学研究科、環境医学研究所

大学院医学系研究科、大学院創薬科学研究科及び環境医学研究所は、12月15日(月)、鶴友会館大会議室において、ラクオリア創薬株式会社との合同シンポジウムを開催しました。

医学系研究科、創薬科学研究科及び環境医学研究所は、それぞれラクオリア創薬との産学協同研究講座を設置する



開会あいさつをする高橋医学系研究科長

ことにより、本学に創薬を核とした産学協同による研究拠点の形成を目指します。今回は、そのキックオフとして、シーズや技術を中心に双方の研究・開発の現状を知るためのプログラムが組まれました。

シンポジウムでは、まずラクオリア創薬の渡邊修造創薬研究担当執行役員から会社の概要紹介、須藤正樹創薬研究部門化学研究部長と多治見政臣開発部臨床担当部長から研究開発の実例紹介がありました。続いて、福山透創薬科学研究科特任教授、貝淵弘三医学系研究科教授、丸山彰一同研究科准教授及び榎本篤同研究科准教授から各々の領域における学術講演が行われました。

当日は、本学及びラクオリア創薬から総勢147名の参加者が集まり、この分野に対する期待の高さが表れていました。

第7回おもしろ科学教室を開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科は、1月12日(月・祝)、IB電子情報館において、第7回「おもしろ科学教室」を開催しました。この催しは、本学の地域貢献特別支援事業として、青少年の科学技術への理解増進を目的に、他の教育研究機関や学会・協会などとも連携して開催しており、今回は、本学を含め、12の機関が協力して実施しました。



理科工作「LED電子万華鏡」に取り組む参加者たち

最初に、山中昌弘宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙教育リーダーが「宇宙に行くためにはーロケットが飛ぶしくみー」と題して講演し、ロケットのしくみや、その飛行が緻密な計算で成り立つこと、そのために考える力を身に付ける重要さなどを、笑いも織り交ぜながら、分かりやすく説明しました。小学校低学年の児童も多数いましたが、活発に質問するなど、興味深く話を聞いている様子でした。続いて、日本弁理士会東海支部の電子紙芝居「『発明』、『特許』ってなあに?ーパン職人レオ君ものがたりー」が上演され、発明保護の重要さや弁理士の役割などが分かり易く解説されました。これらの講演の前後には各参加団体のブース見学もあり、参加者らは興味深そうに展示物に触れたり、実演に見入ったりしていました。天野浩工学研究科教授の研究室と豊田合成株式会社からもノーベル賞受賞を記念したLED関連の展示があり、また、天野教授の等身パネルが展示され、ひと際目を引いていました。

第2部では理科の原理を応用した工作や、電波を使った鬼ごっこなど、参加者が事前に申し込んだテーマに取り組みました。少し手間取る児童もいましたが、最後には全員が作品を完成させ、科学の面白さを堪能した様子でした。

材料バックキャストテクノロジーシンポジウムを開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科附属材料バックキャストテクノロジー研究センターは、1月14日(水)、ES総合館ESホールにおいて、材料バックキャストテクノロジーシンポジウム「未来のモノづくりと材料に向けた生体システムからのアプローチ」を開催しました。今回のシンポジウムは、研究者・技術者・学生等を対象として、生体システムを指向し



会場の様子

た、人工物の生産プロセスやデザイン及びライフサイクルアセスメントに関する講演を通じて、地球の一部としての、材料を含めた人工物の生産システムやデザインの在り方について考えることを目的として実施されました。

シンポジウムでははじめに、金武材料バックキャストテクノロジー研究センター長が、「バックキャスト」の概念も昨今は認知度が上がってきているとのあいさつをした後、松下工学研究科長からあいさつがあり、モノづくりに係る今回の講演への期待の高さが述べられました。

シンポジウム前半では、知恵を持たない生体システムの柔軟で自律的な意思決定の仕組みに、生産システムを考えるヒントとなるような興味深い講演が行われ、後半には、製品のライフサイクル全体を俯瞰し、環境影響の評価を行っている研究者の方々の講演があり、終了予定時間をオーバーするほど熱意溢れるものでした。

当日は約140名の参加があり、講演後のポスター発表と交流会も盛況のうちに終了しました。今後も、東海地域の産学官との連携を深め、「材料バックキャストテクノロジー」という視点の研究や人材育成の輪を広げていきたいと思ひます。

第24回 IHP トレーニング・コースを開催

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターでは、11月23日(日)から12月7日(日)の間、第24回 IHP トレーニング・コースが開催されました。IHP トレーニング・コースは、ユネスコ国際水文学計画 (IHP) への協力として、主にアジア・太平洋地域の若手研究者・技術者を対象に、同センターと京都大学防災研究所が毎年交互に開催しているものです。今年度



講義の様子

は、「森林水文学－森・土・水の保全のために」をテーマに同センターで開催されました。また今回は、文部科学省の平成26年度政府開発援助ユネスコ活動費補助金と、本学など4大学が共同で推進する「地球気候系の診断に関わるバーチャルラボラトリーの形成」プログラムの支援を受けています。

参加者は、ユネスコジャカルタ事務所より推薦された5名、上記の補助金やプログラムの支援による5名、京都大学の留学生2名の計12名の研修生と、文部科学省からの補助金によりアメリカ・ハワイ大学、イギリス・ランカスター大学それぞれから2名の著名な森林水文学者を基調講演者として招へいしました。ほとんどの講義は慶應義塾大学の協力を得てウェブ配信されました。また、東京大学生態水文学研究所、京都大学森林水文学研究室のそれぞれの森林水文試験地において野外講義が行われました。

公開講演会「環境災害リスクと地球水循環研究」を開催

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、1月10日(土)、シンポジオンホールにおいて、公開講演会「環境災害リスクと地球水循環研究」を開催しました。同センターは、毎年、地球水循環に関わる最新の研究成果を社会に紹介する一般向けの講演会を開催していますが、今回は社会的関心の高いテーマ設定であったこともあり、高校生や大学生を含む様々な



講演の様子

年齢層から過去最多となる143名の参加がありました。

はじめに、坪木和久同センター教授から、極端気象研究、特に雲解像モデルを用いた台風の将来予測についての最新の知見が紹介されました。次に、鈴木康弘減災連携研究センター教授から、今年が阪神・淡路大震災後20年であることから、その後の神戸地域の活断層研究の成果とともに、地震災害の低減(減災)に向けた提言を交え、地域固有の自然の特徴を知ることの重要性が解説されました。最後に牛山素行静岡大学防災総合センター教授からは、過去の気象災害の変遷を教訓に、気象災害、地震災害、津波災害に対する人間の取るべき対応方法の違い、防災上の基本的な考え方が解説されました。

講演後、檜山哲哉同センター教授の司会進行のもと、3名の講演者によるパネルディスカッションが行われ、参加者から多くの質問が寄せられました。自然現象そのものの丹念な調査の重要性や、環境災害に対するリスク低減に向けた準備と行動の大切さが認識され、防災や減災のために地球科学、特に地球水循環研究が果たす役割は何かを参加者とともに深く考える良い機会になりました。

『名古屋大学附属図書館蔵水田文庫貴重書目録』刊行記念講演会を実施

●附属図書館

附属図書館は、12月7日(日)、中央図書館大会議室において『名古屋大学附属図書館蔵水田文庫貴重書目録』刊行記念講演会を開催しました。この講演会は、11月に『名古屋大学附属図書館蔵水田文庫貴重書目録』を刊行したことを記念して、幅広い分野の研究・調査に携わる研究者等が水田文庫の有効活用を図ることにより、高度な学術成果を



講演する坂本慶應義塾大学教授

得られるよう名古屋大学全学同窓会の支援を受けて実施したものです。講師には、目録の序文を寄せていただいた坂本達哉慶應義塾大学経済学部教授のほか、水田 洋本学名誉教授に師事した山田園子広島大学社会科学部教授、安藤高等研究院長を迎えました。講演では、水田文庫についての成り立ち、五層構造になっている水田文庫の特徴、OPAC(蔵書検索)での水田文庫の検索手法、水田名誉教授の旧蔵書の一部が中国浙江大学に寄贈されて活用されていることなど、それぞれの立場から広範な解説がありました。講演終了後、講演会に出席した水田本学名誉教授からもあいさつが述べられ、質疑応答の他、活発な議論が行われ、有意義な講演会となりました。

また、記念講演会に合わせて、12月3日(水)から18日(木)までの期間、中央図書館ビブリオサロンにおいて、2,000冊以上に及ぶ水田文庫貴重書の中から目録の口絵で紹介された図書を中心に約60点の貴重書を展示し、多数の参観者が足を運びました。

第58回博物館コンサートを開催

●博物館



コンサートの様子

博物館では、12月20日(土)、第58回博物館コンサート「クリスマスコンサート～インカからの贈り物～」をフォルクローレグループ：ティエラブランカにより開催しました。平成13年から行われているこの企画は「NUMCo(ナムコ)」と名付けられていますが、Nagoya University Museum Concertの頭文字をとっただけではなく、名古屋大学に芸術の夢が来る「名・夢・来」という意味も表しています。

当日は『エルトレイン デラ ビデ (人生の列車)』はじめ全10曲が楽器解説などの絶妙なトークとともに約1時間にわたり演奏されました。演奏者と一体になった聴衆364名の手拍子、歌声、踊り、熱気が館内にあふれました。また、特設した南米民族衣装体験コーナーや楽器体験コーナーなどもあり、博物館らしいコンサートとなりました。アンケートの回答では「住んでいたペルーの風景が目には浮び涙がでた。目をつぶるとアンデスにいるようで風を感じた。楽器の解説が丁寧で面白かった」など好評でした。

ミクロの探検隊®開催

●博物館



放散虫を観察する様子

博物館は名古屋大学地域貢献特別支援事業の助成を受けて12月23日(火・祝)に『微化石放散虫－電子顕微鏡を使ってさぐる形の不思議』を開催しました。今回は小学5年生から大人まで16名が参加しました。放散虫は単細胞生物のプランクトンで、現在も海で生きていますが、微化石として岩石などから見つけ出すことも出来ます。今回は、博物館所蔵のジュラ紀のマンガンジュールから取り出した微化石の放散虫を面相筆で拾い出し、走査型電子顕微鏡を使って観察しました。当日は実体顕微鏡を20台、博物館の電子顕微鏡3台を使用して、各自が納得のいくまで観察を行いました。さらに同定できない放散虫も「すべての放散虫に名前が付けられているわけではない、新種かもしれない＝科学は分からないことがいっぱい」ということなど、普段の勉強では考えられないことを体験しました。参加者の知的好奇心で目を輝かせながら真剣に取り組む姿から、科学への興味を深めたと十分な手応えを感じました。

第106回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する木股氏

減災連携研究センターは、12月26日(金)、減災館において、第106回防災アカデミーを開催しました。今回は東濃地震科学研究所副主席主任研究員である木股文昭氏が「火山と向かい合うことの大切さ－2014年御嶽山噴火から学ぶ」と題して講演を行い、93名の参加がありました。

講演では、御嶽山の有史以来初の噴火であった1979年以降、1991年、2007年に発生した小規模噴火に関する知見を踏まえ、多くの人的被害をもたらした昨年の噴火に至った経緯を振り返りました。その上で、火山防災を進める上で重要な鍵である火山活動に関する情報共有が、気象庁、自治体、住民、観光客の間で十分に図られていなかった問題が指摘されました。また、気象庁において火山に関する専門性を有する職員が不足していることも指摘され、専門的な人材育成が重要な課題であることが認識されました。講演後には参加者との間で活発な質疑応答が行われました。

平成26年度「高校生防災セミナー」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、12月25日(木)、減災館において、高大連携事業「高校生防災セミナー」を開催しました。これは、同センター、愛知県防災局、愛知県教育委員会が共同で未来の防災リーダーの育成を目的として開催しており、昨年夏の開催に引き続き、代表校による成果発表や意見交換会が行われました。このセミナーでは、毎年愛知県



午後に行われたグループ発表の様子

内の15の高校が参加し、各校の代表の生徒4名と先生1名が、夏休み中の4日間にわたって、本学教員や防災関係者による講義・演習を受講し防災への知識を高めた上で、それぞれの高校で取り組んできた防災・減災活動について、年末に成果発表会を行っています。

午前中には、7つの高校が各校で取り組んできた活動内容を紹介、高校内のみならず地域住民や地域の小中学校、保育園などもまきこんで展開した事例等が発表され、隈本邦彦減災連携研究センター客員教授や近藤ひろ子同センター防災教育アドバイザーから講評を受けました。参加校の中には、地域の災害の歴史を知ることの大切さに気づき、地元のお年寄りに過去の地震体験の聞き取りを行った高校や、なるべく多くの人に情報発信するため新たな防災商品や啓発キャラクターの開発に取り組んだ高校もあり、それぞれの高校や地域の特色を生かした防災の取り組みが注目を集めました。

午後には他の参加校によるグループに分かれての発表や、市町村の防災関係者や防災ボランティアを交えた意見交換会なども行われました。

名大を表敬訪問された方々 [平成26年10月16日～平成27年1月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
10月21日	国際機関	国際連合からメル・カーン元国連事務次長補・国連人権高等弁務官事務所副弁務官他3名	表敬あいさつ及び国連デー記念イベント参加
11月4日	中国	上海交通大学から平野眞一議席教授(本学前総長)他6名	表敬あいさつ及び関係研究施設見学
11月6日	インド	インド工科大学ハイデラバード校からウダイ・デサイ学長	表敬あいさつ及び関係教員・留学生との懇談
11月9日	国際機関	国連大学からデイビッド・マローン 学長他1名	表敬あいさつ及び本学にて開催の国際会議出席
11月10日	ギリシャ	ギリシャ 教育・宗務省からアンドレアス・ロヴェルドス閣下他5名	表敬あいさつ及び文学研究科との意見交換
11月11日	イラン	ファルアギヤン大学からモハマド・メルモハマディ学長	教育発達科学研究科の視察及び意見交換
11月11日	サウジアラビア	サウジアラビア高等教育省からモハマド・アブドゥラジズ・アルオリ 高等教育次官	表敬あいさつ及び意見交換
11月11日	英国	リーズ大学からクリーブ・スーター海外留学室長他1名	学生交換に係る意見交換及び関係施設視察
11月13日	ホンジュラス ネパール ミャンマー	ホンジュラス教育省からマーロン・オニール・エスコト・バレリオ大臣、ネパール教育省からチトラ・レカ・ヤダブ大臣他1名、ミャンマー教育省からゾーミン・アウン副大臣他1名	表敬あいさつ及び教育学部・教育学部附属学校との意見交換
11月27日	南アフリカ	駐日南アフリカ共和国大使館からモハウ・ベコ特命全権大使他1名	ネルソン・マンデラ記念講演
12月2日	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学からヴァン・ドゥワラ教授	表敬あいさつ
12月4日	モンゴル	駐日モンゴル国大使館よりソドブジャムツ・フレルバートル特命全権大使	表敬あいさつ及び PhD 登龍門国際情勢講座講演
12月25日	インドネシア	インドネシア宗教省イスラムスクールからモハマド・ヌル・コリス・セティアワン ディレクター他2名及びインドネシア I I F E 奨学金財団からジュナイディ・ガファー ディレクター	表敬あいさつ及び意見交換
1月12日	オーストラリア	アデレード大学からリチャード・ラッセル研究担当副学長及びアラスター・パート医学部長他1名	表敬あいさつ及び医学系研究科ジョイントディグリーに関する打合せ
1月13日	モンゴル	モンゴル国立教育大学からマンダク教員養成学部長他1名	表敬あいさつ
1月13日	国際機関	国際連合経済社会局持続可能な開発部からニキル・セス部長	表敬あいさつ

新たに締結した学術交流協定 [平成26年10月16日～平成27年1月15日]

大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
12月8日	タイ	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校

部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
10月20日	ドイツ	マインツ大学物理・数学・コンピュータ学部	工学部・工学研究科
11月28日	中国	東華大学外語学院	国際言語文化研究科
1月6日	ミャンマー	ヤンゴン第一医科大学	医学部・医学系研究科

構成員を対象とした研修 [平成26年10月16日～平成27年1月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
10月6日(月) ～31日(金)	平成26年度名古屋大学事務系職員 中期海外研修	事務職員の実践的な国際対応力の強化等を図るため、海外拠点で必要な事務業務等を体験することにより、海外キャンパス設置に資する職員及び国際化に対応した職員を養成する。	1名
10月17日(金)	国際教育交流業務に関する教職員研修 (第3回) 「本学同窓生(元留学生)による講演会」	専門的な知識や能力をもち、大学の更なる国際化を推進できる教職員の育成を目指す。	20名
10月22日(水) 1月8日(木)	第2回 TOEIC IP テスト 第3回 TOEIC IP テスト	特に若手職員を対象に受験の機会を提供することにより、自己の実力を知り、自身の自己啓発の動機づけに繋げる。	15名 65名
11月7日(金)	労働関係法セミナー	本学の労務・福祉関係業務の担当者が、労働基準法等の関係法令の知識を身に付け、業務の的確な遂行に役立てるために実施する。	63名
11月10日(月) 12月8日(月)	第84回特許基礎セミナー 第85回特許基礎セミナー	特許制度の基礎や特許出願書類作成の流れを学ぶとともに、特許文献調査の実習を行うことで、教職員・研究者に必須の特許知識の向上を図る。	10名 3名
11月11日(火)	核医学検査・治療の紹介と放射線被ばくについて	外来クラーク(医師事務作業補助者)に対する医学知識向上を図るための学習会	20名
11月17日(月) ～21日(金)	平成26年度名古屋大学民間企業派遣研修	民間企業等の業務に従事することにより、柔軟かつ迅速な業務対応について学ぶとともに、今後の名古屋大学の発展に資する人材を養成する。	1名
11月19日(水)	人事担当者向け個人情報保護及び 情報セキュリティ研修	人事担当者及び人事給与システム利用者を対象として、個人情報の保護に関する意識の向上、個人情報の適正な管理や取り扱いを習得することにより、個人情報の漏えいを未然に防ぐことを目的とする。	38名
11月25日(火) 26日(水) 28日(金) 12月5日(金) 8日(月) 11日(木)	財務会計システムパネル説明会 (東山、鶴舞、大幸の各地区)	平成27年度から運用を開始する財務会計システムについて、運用方法及び操作入力画面毎に入力項目、入力方法などの説明・周知することを目的とする。	2,054名
11月27日(木)	第16回教務学生事務担当者実務研修	教務学生事務の実務を担当する職員の資質向上を目指し、教育・学生支援に関する業務の円滑な処理に必要な知識を習得させることにより事務効率の向上を図る。	50名
12月1日(月) 2日(火) 3日(水) 5日(金)	平成26年度(後期)医療安全・感染対策・ 医薬品安全研修	良質な医療を提供する体制の確立及び個々の安全に対する意識の向上を図るとともに、院内感染対策を推進するため。	1,750名
12月8日(月) 9日(火)	平成26年度 会計基準研修	国立大学会計基準を理解し、本学における財務会計処理の理解を深め、財務会計処理における説明責任を果たすための知識を習得することを目的とする。	25名
12月12日(金)	国際教育交流業務に関する教職員研修 (第4回) 「留学生アドバイザーとプログラミング」 ～受入留学生を対象に～	専門的な知識や能力をもち、大学の更なる国際化を推進できる教職員の育成を目指す。	11名
12月19日(金) 22日(月)	職員対象 院内講習会 エボラウイルス感染症への対応	エボラウイルス感染症への対応方法等に対する理解を深め、院内感染対策を推進するため。	91名

平成26年度定年退職教授等の最終講義日程

下記の情報は、2月1日現在のものです。詳細については、問い合わせ先にご確認ください。

所 属	氏 名 職名	月 日	時 間	場 所	講義題目	問い合わせ先
理事	山本 一良 理事	3月12日(木)	15:00~17:00	ES 総合館 1階 ES ホール	「名古屋大学での42年」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
国際教育交流本部	村上 京子 教授	2月23日(月)	14:45~16:15	国際棟207講義室	「日本語教育における評価 ー考え方の移り変わりをめぐってー」	衣川隆夫国際教育交流本部 国際言語センター教授 052-789-4700
文学研究科	嶋田 義仁 教授	2月27日(金)	15:00~	文学部237講義室	地球人類の人類学をめざして 1. 人類文明の形成をアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明から考える 2. 人類形成の謎を地球環境の寒冷・乾燥化から考える	嶋田義仁文学研究科教授 052-789-5697または 052-789-2262
	加藤 國安 教授	実施しない				
教育発達科学研究科	早川 操 教授	2月9日(月)	14:00~15:30	教育学部大講義室	デューイ研究30年を振り返る	松下晴彦教育発達科学研究科教授 052-789-2616
経済学研究科	高桑宗右工門 教授	3月6日(金)	14:45~16:15	法経共用館 第2講義室	オペレーションズマネジメントにおけるシミュレーション分析	文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-4920
	安藤 隆穂 教授	3月7日(土)	14:00~16:00	経済学部第3講義室	社会思想史ー成立と確立の時代を生きる	文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-4920
	金井 雄一 教授	3月14日(土)	14:00~15:30	法経共用館 第2講義室	金融史研究におけるピール銀行法の意義ー内生的貨幣供給論および信用先行説の視点を取り込んでー	文系総務課総務グループ (経済担当) 052-789-4920
	加藤 英明 教授	実施しない				
医学系研究科	磯部 健一 教授	2月23日(月)	16:30~17:30	基礎研究棟(講義棟) 3階第2講義室	免疫と疾患	医学部・医学系研究科 総務課学部事務掛 052-744-2774
	村手 隆 教授	3月13日(金)	14:00~15:30	大幸キャンパス 東館4階大講義室	Searching for the Sphinx of the Lipid (Sphingolipid)	近藤高明医学系研究科教授 052-719-1552
	大磯ユタカ 教授	3月19日(木)	16:00~17:30	基礎研究棟(講義棟) 4階第4講義室	石の上にも四十年： 私の歩んだ鶴舞物語	医学部・医学系研究科 総務課学部事務掛 052-744-2774
	祖父江 元 教授	3月20日(金)	16:00~17:30	基礎研究棟(講義棟) 4階第4講義室	神経変性疾患の克服を目指して	医学部・医学系研究科 総務課学部事務掛 052-744-2774
	河村 守雄 教授	3月20日(金)	13:00~14:30	大幸キャンパス東館 4階大講義室	名古屋大学での41年を振り返って	鈴木重行医学系研究科教授 052-719-1362
	古川 鋼一 教授	3月27日(金)	15:00~16:30	基礎研究棟(講義棟) 4階第4講義室	次世代の糖鎖科学をめざして	医学部・医学系研究科 総務課学部事務掛 052-744-2774
工学研究科	黒田 新一 教授	2月20日(金)	15:00~	IB 電子情報館 2階 大講義室	「電子スピン共鳴法による有機エレクトロニクス材料の研究」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
	河本 邦仁 教授	3月4日(水)	15:00~16:30	IB 電子情報館 2階 大講義室	「無機材料化学研究42年の歩み」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
	山下 博史 教授	3月6日(金)	15:00~	工学部2号館南館 4階241講義室	「教職員学生と歩んだ伝熱・燃焼研究の38年」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
	藤澤 敏治 教授	3月9日(月)	15:00~16:30	ES 総合館 2階 025講義室	「Metallurgical Thermochemistryから Waste Management」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
	石川 孝司 教授	3月13日(金)	15:00~16:30	ES 総合館 1階 ES ホール	「塑性加工の研究・教育40年」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
	辻本 哲郎 教授	3月17日(火)	16:00~17:30	環境総合館 1階 レクチャーホール	「流砂の水理」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
	田中 英一 教授	3月18日(水)	15:00~	工学部2号館南館 4階241講義室	「名古屋大学における47年の歩み」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
	小長谷重次 教授	実施しない				
	香田 忍 教授	実施しない				
生命農学研究科	田中 利治 教授	2月20日(金)	13:55~14:40	生命農学研究科 第12講義室	隙間の生物学	農学部庶務掛 052-789-5266
	海老原史樹文 教授	2月20日(金)	14:45~15:30	生命農学研究科 第12講義室	生物リズムと行動研究 ~自由な学風と良き隣人に恵まれて~	農学部庶務掛 052-789-5266
	水野 猛 教授	実施しない				

INFORMATION

所 属	氏 名 職名	月 日	時 間	場 所	講義題目	問い合わせ先
国際言語文化研究科	前野みち子 教授	2月5日(木)	15:00~16:30	文系総合館 カンファレンスホール	文化学の楽しみ	文系総務課総務グループ (国際言語担当) 052-789-5312
環境学研究科	佐野 充 教授	3月9日(月)	15:30~	中央図書館2階 ディスカバリスクエア	名古屋大学での34年間の回想	長尾征洋都市環境学専攻 助教 052-789-5180
	川邊 岩夫 教授	3月13日(金)	14:00~	理学部 E 館 101号室	希土類元素の化学・地球化学とランタニド四組効果:「ヨルゲンセン-川邊の式」が意味するもの	平原靖大地球環境科学専攻 准教授 052-789-2992
情報科学研究科	坂部 俊樹 教授	3月13日(金)	16:00~17:30	ES025 (ES 館 2階)	名古屋大学での36年 -抽象データ型とともに-	情報文化学部・情報科学研究科庶務掛 052-789-4716
	平田 富夫 教授	3月14日(土)	15:00~16:30	IB 電子情報館北棟 8階081講義室	アルゴリズム研究40年	柳浦睦憲情報科学研究科 教授 052-789-4239
	神保 雅一 教授	実施しない				
環境医学研究所	錫村 明生 教授	3月13日(金)	15:30~17:00	環境総合館 1 階 レクチャーホール	グリア細胞から見た神経免疫学	水野哲也環境医学研究所 准教授、大西さとみ(秘書) 052-789-3883
	小松由紀夫 教授	実施しない				
エコトピア科学研究所	田中 信夫 教授	3月6日(金)	15:00~17:00	野依記念学術交流館 2階 カンファレンスホール	TEM と STEM、行きつ戻りつ40年	齋藤 晃エコトピア科学 研究所准教授 052-789-3596
	丹司 敬義 教授	3月6日(金)	13:00~15:00	野依記念学術交流館 2階 カンファレンスホール	電子の波に乗った30年	田中成泰エコトピア科学 研究所准教授 052-789-5277
農学国際教育協力研究センター	浅沼 修一 教授	2月20日(金)	15:35~16:20	生命農学研究科 第12講義室	土壌微生物から農学国際協力へ、 道半ば	農学部庶務掛 052-789-5266
発達心理精神科学教育研究センター	本城 秀次 教授	1月28日(水)	14:00~15:45	教育学部大講義室	退職に当たって	金子一史発達心理精神科学 教育研究センター准教授 052-789-2665
	安田 道子 教授	実施しない				
ナショナルコンポジットセンター	石川 隆司 教授	2月27日(金)	15:00~16:30	工学部 2 号館 南館 4 階 241講義室	「先端複合材料を追いかけた43年の 回想- CFRPは今や人類の宝-に至つた経緯」	工学部総務課総務掛 052-789-3402
地球水循環研究センター	上田 博 教授	3月3日(火)	13:30~15:00	野依記念学術交流館 2階 カンファレンスホール	SCRUTINIZE THE PRECIPITATION CLOUDS	研究所総務課総務掛 052-789-3466
総合保健体育科学センター	島岡みどり 教授	1月21日(水)	13:00~14:30	総合保健体育科学 センター 2 階 会議室	労働と体力	
	西田 保 教授	3月4日(水)	17:00~17:50	総合保健体育科学 センター 2 階 会議室	スポーツ動機づけ研究を振り返って!	総合保健体育科学センター 事務室 052-789-3946

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年12月16日~平成27年1月15日]

記事	月日	新聞等名
1 社会部長が選ぶ今年の十大ニュースの選考会があり、6位に「青色LEDで日本人3氏がノーベル物理学賞」が選ばれた	12.16 (火)	毎日(朝刊) 中日(朝刊)
2 のよりサロン:「子どもの心に灯を」環境に対峙 実感しよう 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	12.16 (火)	中日(朝刊)
3 紙上診察室: 脊髄小脳変性症になり不安 渡邊宏久脳とこころの研究センター特任教授が回答	12.16 (火)	中日(朝刊)
4 切り拓く愛知県がんセンター開設50年: ⑤競争 高橋 隆医学系研究科教授は「遺伝子レベルのがん治療は基礎研究の成果が臨床に直結する。今こそ研究所と病院が併設されているメリットを生かせる」と語る	12.16 (火)	中日(朝刊)
5 いまドキッ! 大学生: 学内遺跡は学生の“宝” 梶原義実文学研究科准教授は「陶器の一大産地とされる愛知県の源流が学内にあり、貴重な文化遺産」と語る	12.16 (火)	中日(朝刊)
6 第106回防災アカデミー「火山と向かい合うことの大切さ2014御嶽山噴火から学ぶ」開催: 26日 東濃地震科学研究所副所長主任研究員木股文昭氏元本学教授が講演	12.16 (火)	中日(朝刊)
7 博物館コンサート フォルクローレクリスマスコンサート「インカからの贈り物」開催: 20日 博物館で行われる	12.16 (火)	中日(朝刊)
8 天野 浩工学研究科教授がノーベル授賞式などの行事を終え帰国し濱口総長らが中部国際空港で花束を贈呈	12.16 (火) 12.17 (水)	日経(夕刊) 他3社 中日(朝刊) 他2社

記事	月日	新聞等名
9 天野 浩工学研究科教授が行きつけの居酒屋で青色 LED にちなんだ特製カクテル「天野ブルー」の提供をはじめ、代金代わりに募金を呼びかけたところ、約10万円が集まった	12.16 (火)	日経 (夕刊)
10 全国大学ビブリオバトル2014京都決戦開催：14日 河合さやかさん文学部2年生が紹介した書籍「タテ書きはことばの景色をつくる」が準グランドチャンプ本に選ばれた	12.17 (水)	読売
11 時のおもり：法の拡大解釈招く恐れ 池内 了本学名誉教授	12.17 (水)	中日 (朝刊)
12 国立競技場建て替え 建築家争鳴 新提案も 榎 文彦本学名誉博士が「競技場としてもホールとしても理想的でないものを、今コストをかけて造る意味はない」と語る	12.17 (水)	朝日 (朝刊)
13 時流の先へ：トヨタの系譜 第6部 命運かけた環境技術〈1〉トヨタ自動車株式会社社長内山田竹志氏本学卒業生	12.17 (水)	中日 (朝刊)
14 ソウル：本学の出身者らが「ソウル名大会」を発足したことが取り上げられる	12.17 (水)	中日 (夕刊)
15 日経ものづくりシンポジウム「ものづくりと中部の将来—日本製造業復権と大学の役割」開催：5日 濱口総長が赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授がノーベル物理学賞を受賞したことについて「師匠の指導のもと、若い世代が自由な発想で研究できた、豊田合成の支援が早期に得られたことも大きい」と語る	12.18 (木)	日経 (朝刊)
16 住友生命保険は今年の世相を表す「創作四字熟語」を発表し優秀作品に青色 LED でノーベル物理学賞を受賞したことを祝う「青光褒祝」などが選ばれた	12.18 (木)	中日 (朝刊) 読売
17 サイエンスカフェ：栄誉と喧騒 赤崎 勇本学特別教授のノーベル賞授賞式のアタッシュ (随行員) カイ・レイニウス氏	12.18 (木)	毎日 (朝刊)
18 高野雅夫環境学研究科教授は太陽光発電パネルで電力をまかなう「オフグリッド」住宅に人が住み、電力の消費量や効率などを調べる実験を始めた	12.18 (木)	朝日 (朝刊)
19 秋山真志医学系研究科教授は皮膚のバリア機能が弱まり、アレルギーを発症するメカニズムについてたんぱく質「フィラグリン」にかかわる遺伝子に変異があるとつくる量が弱まり、アレルギーを起こす抗原が体内に入りやすくなると考えられると解説	12.18 (木)	毎日 (朝刊)
20 渡邊誠一郎環境学研究科教授は欧州宇宙機関が探査機が到達した彗星を取り巻く水分子は、地球の海の水と特徴がかけ離れているとの分析結果をまとめたことについて「重水素と水素の比率という観点から新たな知見が得られた」と語る	12.18 (木)	朝日 (朝刊)
21 第68回全日本学生音楽コンクール名古屋大会 入賞者記念演奏会開催：1月10日 声楽部門 西影星二さん本学5年生	12.18 (木) 12.25 (木)	毎日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
22 数理ウェブ：27日 多元数理科学棟509号室で行われる	12.19 (金)	中日 (朝刊)
23 工学研究科長に新美智秀同教授を選出	12.19 (金)	中日 (朝刊)
24 2014年の重大ニュース 5位青色 LED 発明の3氏にノーベル賞	12.20 (土)	朝日 (朝刊)
25 第20回博物館特別展「2014年ノーベル物理学賞青色 LED の開発研究」開催：12月9日～2015年4月11日	12.20 (土) 1.14 (水)	朝日 (朝刊) 朝日 (夕刊)
26 理学研究科長に松本邦弘同教授を選出	12.20 (土)	中日 (朝刊)
27 第41回大佛次郎賞：評伝「吉田健一」大阪芸術大学教授長谷川郁夫氏著 池内 了本学名誉教授は「この作品は文壇から見た昭和史の回顧という趣もあり、賞に相応しい労作といえる」と選評	12.20 (土)	朝日 (朝刊)
28 夕映え：ノーベル物理学賞に赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授	12.22 (月)	朝日 (夕刊)
29 天野 浩工学研究科教授が行きつけの居酒屋で青色 LED にちなんだ特製カクテル「天野ブルー」の提供をはじめ代金代わりに募金を呼びかけたところ、約10万円が集まり近くの児童養護施設に寄付される予定	12.22 (月)	朝日 (夕刊)
30 「紙つぶて」の新しい筆者：金曜日 日本総研主任研究員渡辺珠子氏国際開発研究科修了	12.22 (月)	中日 (夕刊)
31 レーザー：科学技術振興機構理事長中村道治氏は同機構が支援した青色 LED がノーベル物理学賞に輝いたことについて「実り多い1年だった」と語る	12.23 (火)	日刊工業
32 中嶋哲彦教育発達科学研究科教授は大学入試センター試験に代わる「大学入学希望者学力評価テスト」について「学力評価テストが年に複数回行われれば、そのたびに受験生にとって“ヤマ場”が訪れ、日ごろの授業は分断されて教育効果が薄くなる」と語る	12.23 (火)	中日 (朝刊)
33 芦荻基行生物機能開発利用研究センター教授はイネの収量を劇的に上昇させる遺伝子の同定と機能解析に成功	12.23 (火) 12.24 (水)	朝日 (朝刊) 他2社 毎日 (朝刊) 日経 (夕刊)
34 14年産業界10大ニュース：1位 ノーベル物理学賞に LED 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授、特別編第13代経団連会長に東レ株式会社代表取締役会長榊原定征氏本学卒業生	12.24 (水)	日刊工業
35 2014年の主な科学技術ニュース：10月 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授がノーベル物理学賞受賞決定	12.24 (水)	読売
36 東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授はかつて天野 浩工学研究科教授も選ばれた科学技術・学術政策研究所の2014年の注目の研究者10人「ナイスステップな研究者」に選出された	12.24 (水) 1.15 (木)	日刊工業 毎日 (朝刊)
37 第100回なごや災害ボランティア連絡会開催：23日 福和伸夫減災連携研究センター教授は「名古屋には災害を克服する地力がある。日本全体を救う力もある」と語る	12.24 (水)	毎日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年12月16日～平成27年1月15日]

記事	月日	新聞等名
38 備える3.11から 教えてセンセイ! : 食料 平時から備蓄を 武村雅之減災連携研究センター寄附研究部門教授	12.24 (水)	中日 (朝刊)
39 拓く 研究者58 : 化学サイト 来訪者増やす 山口潤一郎理学研究科准教授	12.24 (水)	日刊工業
40 第25回日本数学コンクール表彰式 : 23日 國枝理事が入賞者に賞状や副賞を手渡した	12.24 (水)	中日 (朝刊)
41 ひと '14 ありのままキラリ : ノーベル物理学賞 世界を照らす笑顔 天野 浩工学研究科教授	12.24 (水)	毎日 (夕刊)
42 第29回博物館企画展「野外観察園のボタニカルアート」開催 : 12月13日～2015年1月31日	12.24 (水) 1. 7 (水)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
43 巨 陽工学研究科教授と早稲田大学などの研究チームはステンレス部品などに金属疲労で入った亀裂を修復する熱処理技術を開発	12.25 (木)	日刊工業
44 2014年 科学10大ニュース 第2位 LED ノーベル賞に3氏 赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授	12.25 (木)	朝日 (朝刊)
45 日本経済新聞による国立大学と主要私立大学の2013年度決算集計で利益額が大きい大学として本学が国立大学の5位に入る	12.25 (木)	日経 (朝刊)
46 エコトピア科学研究所長に興戸正純同教授、太陽地球環境研究所長に町田 忍同教授を選出	12.25 (木)	中日 (朝刊)
47 天野 浩工学研究科教授に静岡県民栄誉賞が贈られることになった	12.26 (金)	中日 (朝刊)
48 岸田外相がスウェーデン・バルストロム外相と会談し、赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授のノーベル物理学賞受賞にふれ、科学技術分野の協力拡大を提案し、スウェーデン・バルストロム外相は「受賞は日本人の美点である強い意志と勤勉さの表れだ」と語る	12.26 (金)	読売
49 2014年東海経済の主な出来事 10月7日青色LEDを豊田合成株式会社と共同研究した2氏にノーベル物理学賞	12.26 (金)	朝日 (朝刊)
50 探訪サイエンス : ノーベル博物館 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授がサインした椅子があり、ノーベル賞のメダルをかたどったチョコレートが購入できる	12.26 (金)	日経 (朝刊)
51 第8回 中部経済活性化シンポジウム日本銘酒街道と昇龍道プロジェクト～観光資源としてのSAKEを世界へ～開催 : 2日 パネルディスカッション コーディネーター佐藤宜之経済学研究科教授	12.26 (金)	日経 (朝刊)
52 2014年 読者が選んだ日本10大ニュース③ 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が2014年度ノーベル物理学賞を受賞	12.27 (土) 12.30 (火)	読売 中日 (朝刊)
53 愛知の病院 つなごう医療137: 医学部附属病院 多様な先進医療提供	12.27 (土)	中日 (朝刊)
54 長谷川 正工学研究科教授は二価のスズが固溶した鉛フリーペロブスカイト型強誘電体の超高压合成に成功	12.29 (月)	朝日 (朝刊) 日刊工業
55 「日中省エネルギー・環境総合フォーラム」開催 : 28日 天野 浩工学研究科教授が講演	12.29 (月)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
56 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が2014年度ノーベル物理学賞を受賞	12.29 (月) 12.30 (火) 12.31 (水)	読売 日経 (朝刊) 毎日 (朝刊)
57 2014中部9県3大ニュース ①赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が2014年度ノーベル物理学賞を受賞	12.29 (月)	中日 (朝刊)
58 科学技術広報財団が2014年ノーベル物理学賞を受賞した青色LEDのポスターを作成し好評	12.30 (火)	日刊工業
59 本学の学生などの8人でつくるグループが名古屋の名品を集めたカタログギフトを作り始めた	12.30 (火)	中日 (朝刊)
60 本学や大同大学などが来年度中に超小型人工衛星「ChubuSat-1」(通称金シャチ1号)の後継機の打ち上げを予定していることが分かった	12.31 (水)	読売
61 回顧 '14㊦夢 : 注目を集めた日本の技術 青色LEDを開発した赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が2014年度ノーベル物理学賞を受賞	12.31 (水)	読売
62 社説 : 不安あり希望もあり 大晦日に考える 希望 青色LEDを生んだ名古屋大学	12.31 (水)	中日 (朝刊)
63 光が変わる ノーベル賞の「協演」光る繭 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授の研究、青色LEDと下村 脩本学特別教授の研究、緑色蛍光たんぱく質	1. 1 (木)	朝日 (朝刊)
64 弱さの強さ①言葉とアートとLED 青色LEDの結晶が初めて出来たときの実験を引用	1. 1 (木)	朝日 (朝刊)
65 天野 浩工学研究科教授が浜松市内で開かれた母校の浜松西高等学校同窓会で講演	1. 3 (土)	日経 (朝刊)
66 この人 : 23年ぶりに全国大会出場の名大アイスホッケー部監督 名古屋銀行取締役古本恭久氏本学卒業生	1. 3 (土)	中日 (朝刊)
67 本学と株式会社熊谷組などは橋をハンマーでたたいたときの音から強度を測る劣化診断ロボットの開発を開始	1. 4 (日)	中日 (朝刊)
68 濱口総長は新年の挨拶で教職員を前に「唯一無二の機能を持ち、社会の期待に応えられる足腰の強い大学をどうつくるかが次の世代の大きな課題」と語る	1. 5 (月)	毎日 (夕刊)
69 未来へつなぐ→④愛知万博10年 : 新井史人未来社会創造機構教授が愛知万博に出席した血管内を手術するためのロボット「EVE (イブ)」が現在既に発売されていることが取り上げられる	1. 6 (火)	読売
70 いまドキッ! 大学生 : 「リケジョ」研究者育成を 東村博子男女共同参画室室長が男女共同参画について「消費行動の半分以上を女性が握っている。女性の生活者の視点を入れていけば経済は活性化する」と語る	1. 6 (火)	中日 (朝刊)
71 愛知の女子力⑤ : 理系 名城大学准教授吉永美香氏元本学教員が子育てをしながら研究を続ける難しさを語る	1. 6 (火)	読売
72 ただ今就活中 : 伊藤嘉奈子就職支援室室長は「後ろ倒しの影響か、学生の動きは鈍い」と語る	1. 6 (火)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年12月16日～平成27年1月15日]

記事	月日	新聞等名
73 第29回博物館企画展「野外観察園のボタニカルアート」関連企画「ボタニカルアートの技法」開催：14日	1. 6 (火)	中日 (朝刊)
74 声：天野 浩工学研究科教授の出身高校である浜松西高等学校の同窓会の様子が同窓生から寄せられる	1. 7 (水)	朝日 (朝刊)
75 2015年チャールズ・スターク・ドレイパー賞：赤崎 勇本学特別教授	1. 7 (水)	中日 (朝刊) 他2社
76 坪木和久地球水循環研究センター教授などのグループはスーパーコンピューターを使い地球温暖化に伴いスーパー台風の強度が増大するという予測結果を発表	1. 7 (水)	読売 他2社
77 この人：家電操作に役立つ脳研究のリーダー 京都大学教授石井 信氏が本学を共同研究のために1度訪れ、線虫の脳細胞の機能を調べていると語る	1. 7 (水)	中日 (朝刊)
78 賀詞交歓会：日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生は「設備投資や研究開発投資、賃上げなどを実施し、経済の好循環実現に協力したい」と語る	1. 7 (水)	日刊工業
79 医学部附属病院が2015年度中に心臓移植の施設認定を目指していると報じられる	1. 7 (水)	中日 (朝刊)
80 天野 浩工学研究科教授が取り組んでいるパワー半導体の研究拠点を本学に設ける考えを下村文部科学相が明らかにした	1. 7 (水)	朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 日刊工業
81 「ノーベル・プライズ・ダイアログ・東京2015」開催：3月1日 天野 浩工学研究科教授が講演	1. 8 (木)	毎日 (朝刊)
82 赤崎 勇本学特別教授が2015年チャールズ・スターク・ドレイパー賞に選ばれたことについて「日本人として名誉なことと思っています」と語る	1. 8 (木)	中日 (朝刊) 読売
83 小林 誠本学特別教授と物理学者で首都大学東京名誉教授広瀬立成氏の対談講演会「宇宙の根源を訪ねる長い旅」開催：25日	1. 8 (木)	中日 (朝刊)
84 名古屋圏地域づくりフォーラム開催：22日 森川高行未来社会創造機構教授が基調講演	1. 9 (金)	読売
85 天野 浩工学研究科教授が行きつけの居酒屋が青色 LED にちなんで特製カクテル「天野ブルー」の代金代わりの募金で集まった10万円を名古屋市内の児童養護施設に寄付	1. 9 (金)	朝日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
86 内堀外堀：地元志向 本学の教授の「うちの学生の就職傾向は、どうも保守的で地元志向が強い」という発言が紹介される	1. 9 (金)	中日 (朝刊)
87 愛知 (ここ) に人あり：終わるまで終りなし④ 元プロ野球選手金田正一氏 本学のグラウンドで練習していたことが取り上げられる	1. 9 (金)	朝日 (朝刊)
88 紙つぶて：私の仕事 日本総研主任研究員渡辺珠子氏国際開発研究科修了	1. 9 (金)	中日 (夕刊)
89 VOL.63 トップインタビュー「勇気ある知識人を育てる」を目標に人材育成 名古屋大学第13代濱口総長	1.10 (土)	大学新聞
90 寺崎浩子医学系研究科教授と兼子裕規助教などのグループはプラズマの粒子を照射した液体を目に注射することで加齢黄斑変性の症状を抑えることにマウスを使った実験で成功	1.10 (土)	中日 (夕刊)
91 天野 浩工学研究科教授が取り組んでいるパワー半導体の研究拠点を本学に設けるための研究設備費が文部科学省2014年度補正予算に盛り込まれた	1.10 (土) 1.13 (火)	中日 (朝刊) 他2社 毎日 (朝刊) 日刊工業
92 病院の実力：心臓リハビリ 医学部附属病院の実績が取り上げられる	1.11 (日)	読売
93 平成26年度知の探究講座全体発表会開催：10日 本学や名古屋工業大学など6大学に分かれ県内の高校生が受けた授業や実験の研究結果を発表	1.11 (日)	毎日 (朝刊)
94 天野 浩工学研究科教授が新成人にメッセージを寄せ「自分の住む社会は自分たちでつくる。この機会に社会との関りに方について考えてみてください」と呼び掛けた	1.12 (月)	中日 (朝刊)
95 放課後：赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授のノーベル賞記念講演の英語のスピーチが取り上げられる	1.12 (月)	中日 (朝刊)
96 キラリ 研究開発：第159回・酸と塩基でつくる高機能触媒研究開発 (前編) 石原一彰工学研究科教授	1.12 (月)	日刊工業
97 第7回「おもしろ科学教室」開催：12日 LED 展示や工作教室など本学で行われた	1.13 (火)	中日 (朝刊)
98 中嶋哲彦教育発達科学研究科教授は文部科学省が学生の「受け入れ方針」や「卒業方針」の策定を義務付ける方針を決めたことを受け「学生の現状を見ながら、どういう働きかけが効果的か、試行錯誤している最中だ」と語る	1.14 (水)	毎日 (朝刊)
99 中部発：浜松・母校に協力約束 天野 浩工学研究科教授が母校の浜松市立嶺塚中学校にサイン入り色紙などを贈った	1.14 (水)	中日 (夕刊)
100 活断層の評価 手探り続く 鈴木康弘減災連携研究センター教授は「阪神大震災後10年は地図作りが目標だったが、この10年は戦略的な視点が足りなかった」と語る	1.15 (木)	朝日 (朝刊)
101 知の明日を築く：名古屋大学 減災館 福和伸夫減災連携研究センター教授は「仮に愛知県庁などが地震で機能しなくなったときに、代わりに防災拠点として対応できるようにしている」と語る	1.15 (木)	日経 (朝刊)
102 この人：平和を研究する 西川由紀子国際開発研究科准教授	1.15 (木)	中日 (朝刊)
103 教育発達科学研究科長に氏家達夫同教授を選出	1.15 (木)	中日 (朝刊)
104 読売新聞講座「新聞社のデジタル戦略」開催：14日 読売新聞東京本社メディア局編集部が留学生約20人に講義	1.15 (木)	読売

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

12月9日(火)～4月11日(土)

場 所：博物館 3階ミュージアムサロン
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

第20回博物館特別展
「2014年ノーベル物理学賞 青色LEDの開発研究」



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

1月6日(火)～2月28日(土)

場 所：減災館
時 間：13:00～16:00
休 館 日：日・月・第2第4火曜日
入 場 料：無料

減災館 第4回、第5回特別企画展
「地震災害と学校
ー1945三河地震よりー」
「阪神・淡路大震災と私」



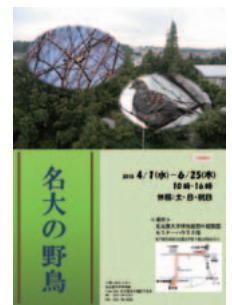
[問い合わせ先]
減災連携研究センター 052-789-3468

2月9日(月)～3月25日(水)、
4月1日(水)～6月25日(木)

場 所：博物館野外観察セミナーハウス
2階
時 間：10:00～16:00
休 館 日：土・日・祝日
入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウス
サテライト展示

「写真展－博物館友の会写真サークル」(2/9～3/25)
「名大の野鳥」(4/1～6/25)



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

2月13日(金)～5月29日(金)

場 所：附属図書館医学部分館
2階入口ホール
時 間：9:00～20:00(平日)
(3/23～31は9:00～17:00)、
13:00～17:00(土曜日)
休 館 日：日・祝日、3月21日、28日
入 場 料：無料

附属図書館医学部分館ミニ展示会
「建物に見る病院と医学校の歴史」

内 容：広く日本と西洋における病院と医学校の歴史を建物から振り返り、絵画、図画、写真等、医学部史料室に所蔵する史料を展示公開する



[問い合わせ先]
附属図書館医学部分館 052-744-2505

2月17日(火)～5月9日(土)

場 所：博物館 2階展示室
時 間：10:00～16:00
休 館 日：日・月曜日
入 場 料：無料

第30回博物館企画展「めだかの学校
ーメダカ先生(山本時男)と名古屋大学のメダカ研究ー」

[関連特別講演会]

場 所：博物館 3階講義室
時 間：13:30～15:00
講演題目：「メダカ先生：山本時男備忘録と養虫山人」(2/28)
講 演 者：宗宮弘明(本学名誉教授)
講演題目：「メダカ学最前線ー日本が育てたモデル動物」(3/7)
講 演 者：成瀬 清氏(基礎生物学研究所准教授)
講演題目：「宇宙を旅した日本のメダカ」(3/25)
講 演 者：井尻憲一氏(東京大学名誉教授)
講演題目：「メダカはわが友ーそれは山本時男研究室から始まった」(4/4)
講 演 者：岩松鷹司氏(愛知教育大学名誉教授)
講演題目：「山本時男先生の思い出とメダカ研究」(4/25)
講 演 者：鬼武一夫氏(東北文教大学長)
参 加 費：無料



[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

2月17日(火)

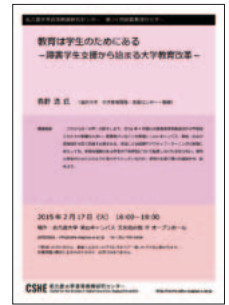
場 所：文系総合館 7階オープンホール
 時 間：16:00~18:00
 定 員：30名
 対 象：本学および近隣の大学関係者
 参 加 費：無料

高等教育研究センター 第74回客員教授セミナー

講演題目：「教育は学生のためにある
 —障害学生支援から始まる大学教育改革—」
 講 演 者：青野 透氏（金沢大学教授）
 内 容：教育は学生のためにどのように変わろうとしているのか、
 教育の本質に関わる議論を今、始めよう

[問い合わせ先]

高等教育研究センター
 教授 夏目達也 052-789-5693



2月18日(水)

場 所：ジュンク堂書店ロフト名古屋店
 7階ブックサロン
 (名古屋市中区)
 時 間：18:30~20:00
 定 員：30名
 対 象：中学生以上、一般
 参 加 費：無料

第54回名大カフェ “Science, and Me”

講演題目：「人肌の材料工学—プラスチック材は人肌にどこまで
 近づけるか—」
 講 演 者：長岡 猛（ナショナルコンポジットセンター研究員）

[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部
 研究員 戸次 真一郎 052-747-6791



2月21日(土)、22日(日)

場 所：名古屋市科学館
 (名古屋市中区) (2/21)、
 蒲郡市生命の海科学館
 (愛知県蒲郡市)、
 三田石材 (愛知県西尾市) (2/22)
 時 間：14:00~16:30 (2/21)、
 9:00~16:00 (2/22)
 定 員：30名
 対 象：小学3年生以上、一般
 (小学生は保護者同伴)
 参 加 費：1,000円

**名古屋市科学館共催事業 平成26年度第4回地球教室
 「鉱物をさがそう！」**

内 容：鉱物の性質について学習し、鉱物の採集と鑑定をする

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



2月26日(木)~3月18日(水)

場 所：中央図書館 2階ビブリオサロン
 時 間：9:00~17:00
 対 象：一般
 入 場 料：無料

**附属図書館2015年春季特別展
 (地域貢献特別支援事業成果報告)**

**「西高木家陣屋と高木家文書
 —西高木家陣屋跡国史跡指定記念—**

内 容：国史跡に指定された附属図書館が所蔵する高木家文書を伝えた
 西高木家の陣屋跡を通じて西高木家陣屋の歴史の変遷を紹介
 する

[問い合わせ先]

附属図書館情報サービス課 052-789-3684



3月3日(火)~6日(金)

場 所：理学南館 1階坂田・平田ホール
 時 間：9:00~17:00

**坂田記念 KMI ワークショップ
 「質量の起源と強結合ゲージ理論 (SCGT15)」**

[問い合わせ先]

素粒子宇宙起源研究機構
 SCGT15@kmi.nagoya-u.ac.jp

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月5日(木)

場 所：野依学術交流館 1階会議室
時 間：12:40～13:50

ナノテクノロジープラットフォーム事業セミナー
「名大の装置を使ってみませんか」

内 容：様々な利用成果例を事業担当者が紹介し業種や所属などに関係なく
支援事業の利用案内を行うランチョンセミナー

[問い合わせ先]

エコトピア科学研究所 052-789-3632

3月6日(金)

場 所：全学教育棟北棟4階
多目的講義室(406号室)

時 間：16:30～18:00

対 象：一般

参 加 費：無料

国際言語文化研究科
第29回応用言語学講座公開講演会

講演題目：「言語の類型的特点を捉えるための対照研究：その可能性と
限界をめぐって」

講 演 者：張 麟声氏(大阪府立大学教授)

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科

教授 堀江 薫

horie@lang.nagoya-u.ac.jp



3月7日(土)

場 所：全学教育棟北棟4階
多目的講義室(406号室)

時 間：15:45～17:15

参 加 費：無料

国際言語文化研究科 第43回日本語教育学講座講演会

講演題目：「言語教育のための対照研究の方法について」

講 演 者：張 麟声氏(大阪府立大学教授)

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科

准教授 杉村 泰

sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

3月7日(土)

場 所：IB電子情報館、ES総合館、
中央図書館

時 間：10:00～17:00

対 象：一般

参 加 費：無料(情報交換会は2,000円)

大学教育改革フォーラム in 東海2015

講演題目：「大学教育改革を進めるために必要なものとは」

講 演 者：奉 敬治氏(追手門学院大学副学長)

内 容：講演、ポスターセッション、ミニワークショップ、
オーラルセッション、他

[問い合わせ先]

高等教育研究センター 052-789-5696



3月7日(土)

場 所：医学部保健学科本館2階、
東館4階

時 間：9:00～12:00

参 加 費：無料

医学系研究科看護学・医療技術学・
リハビリテーション療法学専攻
大学院説明会

内 容：全体説明会、専攻別説明会

[問い合わせ先]

医学系研究科大幸地区事務統括課

052-719-1518



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月10日(火)~28日(土)

場 所: 博物館 2階展示室
時 間: 10:00~16:00
休 館 日: 日・月曜日
入 場 料: 無料

博物館スポット展示
「海藻コレクション」
ー津波にさらわれた8万点の標本」

[ワークショップ「海藻絵ハガキを作ろう!」] (3/28)
場 所: 博物館 3階講義室
時 間: 10:30~12:15, 14:00~15:45
定 員: 各20名
対 象: 小学生以上、一般
参 加 費: 50円(保険料)



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

3月14日(土)

場 所: 名古屋市科学館地下2階
サイエンスホール
(名古屋市中区)
時 間: 14:00~16:30
定 員: 300名
対 象: 高校生以上、一般
参 加 費: 無料(科学館の観覧料が必要)

第13回坂田・早川記念レクチャー

講演題目: 「核力の研究をたどる
ー湯川の間接子論から格子ゲージ理論までー」
講 演 者: 矢崎紘一氏
(理化学研究所仁科加速器研究センター客員主管研究員)



[問い合わせ先]

基礎理論研究センター
准教授 野中千穂 052-789-2866

3月14日(土)、5月30日(土)

場 所: 博物館 2階展示室
時 間: 14:00~15:00
参 加 費: 無料

博物館コンサート NUMCo

「魅惑の歌声」(3/14)
演奏曲目: 「ふるさとの四季」源田俊一郎、
「ほうすけのひよこ」林 光、他
出 演: 井原義則氏(テノール)、
井原妙子氏(ソプラノ)、
栗多香子氏(ピアノ)



「宇宙からのメッセージ
ーフルート、キーボードのアンサンブルー」(5/30)

演奏曲目: 「EARTH」、「星のセレナード」、「月の光」、他
出 演: 杉浦 隆氏(フルート)、木須康一氏(キーボード)

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

3月19日(木)

場 所: 環境総合館 1階レクチャーホール
時 間: 13:00~17:00
対 象: 科学者、研究者、民間部門、
行政機関、一般
参 加 費: 無料

環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター
公開シンポジウム

「アジアにおける環境的に持続可能な交通 (EST)」

内 容: 講演、パネルディスカッション(使用言語は英語で
日本語同時通訳あり)



[問い合わせ先]

環境学研究科附属持続的共発展教育
研究センター事務局 052-747-6547

3月21日(土)

場 所: 西尾市岩瀬文庫地階研修ホール
(西尾市亀沢町)
時 間: 13:00~16:00
対 象: 一般
参 加 費: 無料

国際言語文化研究科教育・研究プロジェクト研究集会
「絵ものがたりにおける宗教と擬人化」

講演題目: 「『絵ものがたり研究会』について」
講 演 者: 伊藤信博(国際言語文化研究科助教)
講演題目: 「御伽草子に見る動物への転生」
講 演 者: 樋口千紘(文学研究科大学院生)
講演題目: 「絵ものがたりと歴史叙述」
講 演 者: 三好俊徳(文学研究科研究員)
講演題目: 「江戸後期における『酒餅論』の系譜」
講 演 者: 畑 有紀(国際言語文化研究科大学院生)



[問い合わせ先]

国際言語文化研究科
助教 伊藤信博 052-789-5282

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月24日(火)

場 所：IB 電子情報館北棟10階
工学研究科創造工学センター
時 間：10:00～17:00 (予定)
定 員：12名
対 象：高校生
参 加 費：400円 (傷害保険料)

**工学研究科創造工学センター
平成26年度第2期高大連携・ものづくり公開講座**

テ ー マ：「AVR マイコンで湿度・温度計を作ろう！」
内 容：電子回路工作 (湿度・温度計)

[問い合わせ先]

工学研究科創造工学センター
052-789-3788



名大トピックス No.261 平成27年2月16日発行
編集・発行/名古屋大学総務部広報渉外課
本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。
名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)
TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙
教育学部附属中・高等学校
交流棟
(平成26年12月15日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

154 名大の広報刊行物 — 『トピックス』『プロフィール』への道 —

長く定期刊行が続いている名大の広報刊行物といえば、本誌『名大トピックス』（月刊）と『名古屋大学プロフィール』（年刊）が挙げられます。ただこれらも、刊行されるようになったのは平成に入ってからです。

1939(昭和14)年に名古屋帝国大学が誕生すると、300頁程度の『名古屋帝国大学一覧』が刊行されました。ただ戦争の影響か、現存するのは42年版(43年3月刊行)までで、敗戦前後の刊行状況はよく分かっていません。

戦後の定期的な刊行物で、大学文書資料室に現存する1番古いものは、1952年5月刊行の『名古屋大学概要』です。名大の基本的な情報を掲載した10頁余りの小冊子で、折りたたみ式のパンフレット型も作られました。76年度版からはサイズが大きくなり、20数頁の冊子型に統一されました。詳細な情報は、500頁に及ぶこともあった『名古屋大学一覧』（1955年～、隔年刊、最初の3冊は『名古屋大学要覧』として刊行）に網羅されていました。

一方、1961年11月には『名古屋大学学報』が創刊されました。総長告辞、法令や学内規則の制定・改廃、教職員の人事・出張・訃報、授与された学位、重要な行事の様相などが、月刊（創刊当初は1～3カ月間隔の不定期刊）で報じられるようになりました。

平成に入ると、『一覧』は1990(平成2)年3月刊行分が、『概要』は91年度版が最後となり、92年度から『名古屋大学のプロフィール』が登場します。2003年度からは、本体と資料編の2冊セットになり、各種データは50頁程度の資料編に、本体には名大をアピールする特集記事が掲載されるようになって現在に至ります。

そして1993年2月には、堅実だが読み物としては単調な『学報』を補い、名大構成員の共通認識の形成や意思疎通をはかるため、『名大トピックス』が創刊されました。『学報』も間隔を3カ月にして刊行を続けましたが、2006年3月に第397号をもって終刊となりました。



- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 1 『名古屋大学概要』(1952年刊)。ただし、1953、54年は『名古屋大学要覧』として刊行されている。その後も、パンフレット型が『概要』で小冊子型が『要覧』の年や、パンフレット型も小冊子型も『概要』の年もあり、しばらくは名称が一定しなかった。 |
| 4 | 5 | | |
- 『名古屋大学概要』(1966年版、折りたたみ式パンフレット)。この年以降75年まで冊子型は作られず、パンフレット型のみになったと思われる。
 - 『名古屋大学概要』(1979年度版)。1976年度にサイズを大きくしてから、東山キャンパスの全景航空写真が毎年の表紙を飾るようになった。
 - 『名古屋大学のプロフィール』(1992年度版)。内容的には現在の資料編にあたる。なお、現在は『名古屋大学プロフィール』だが、2004年度版までは「の」が付いていた。
 - 『名大トピックス』創刊号。当初はB5版であったが、第20号からA4版となった。2005年4月の第143号から、誌面を全面リニューアルするとともに、全頁カラーとなった。